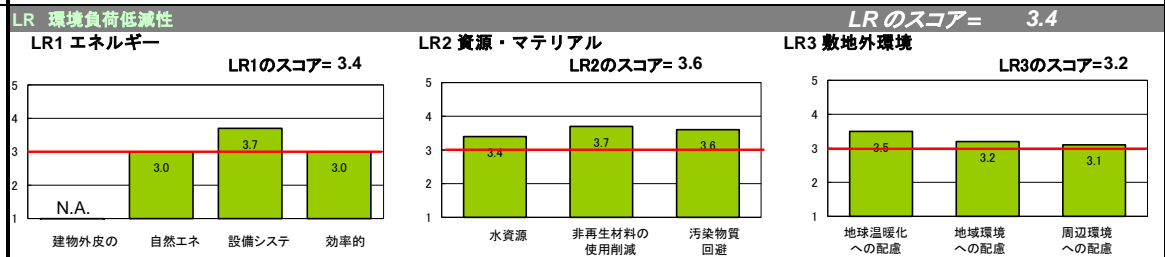
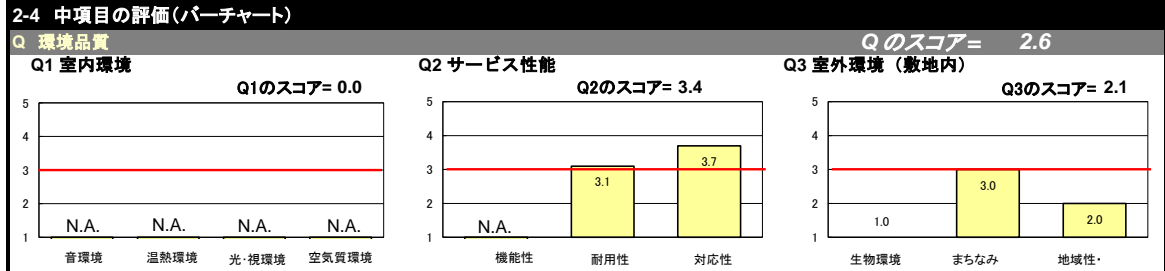
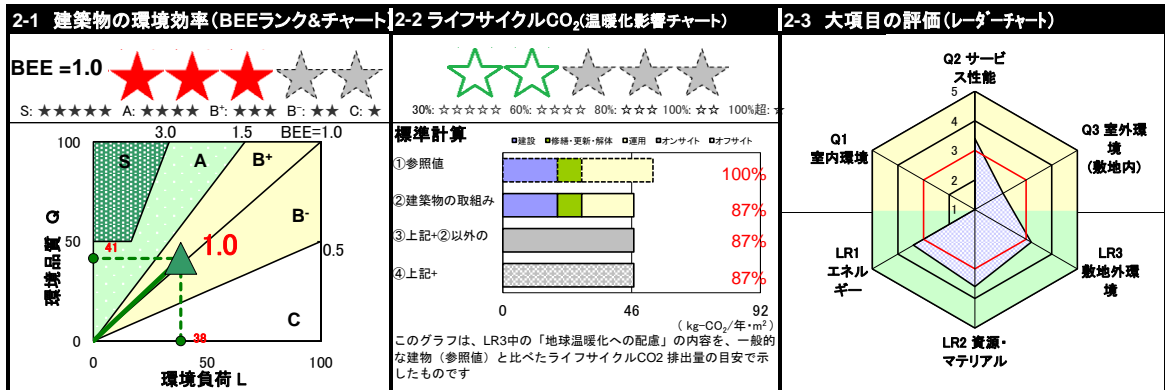


CASBEE[®] あいち

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名誘 第7工場	階数	地上2階
建設地	愛知県小牧市大字東田中野田1200-1他101筆	構造	S造
用途地域	工業専用・法22条指定	平均居住人員	764 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年8月 予定	評価の実施日	2024年4月9日
敷地面積	10,173 m ²	作成者	松本拓也
建築面積	7,852 m ²	確認日	2024年4月23日
延床面積	8,500 m ²	確認者	松本拓也



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr><td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td><td>0.0 %</td></tr> <tr><td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td><td>0.0 %</td></tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr><td><外装材に使用した地域性のある材料></td><td>なし</td></tr> <tr><td><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></td><td>なし</td></tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

 実行に ます

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)名誘 第7工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-	-	-
2 温熱環境										
2.1 室温制御				-	-	-	-	-	-	-
1 室温				3.0	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-	-	-
3 光・視環境										
3.1 屋光利用				-	-	-	-	-	-	-
1 屋光率				3.0	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	-
3 屋光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	-
1 屋光制御				5.0	-	-	-	-	-	-
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-	-	-
4 空気質環境										
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-	-	-
1 換気量				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	0.43	-	-	-	3.4
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自			3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.5	3.1	0.52	-	-	-	3.1
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.2	0.48	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				0.3	3.0	0.33	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		防振吊金具を使用している	-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	2.0	0.25	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水 VLP 給湯 SUS 排水・通気 VP Eは不使用	-	3.0	0.08	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	5.0	0.17	-	-	-	-
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19	-	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備			省水型便器の採用、災害時の使用や確保	3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
3 電気設備	②			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.4	3.7	0.48	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高 4.9m以上	-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 0.04	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.2	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性		②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			ケーブルラック使用	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	公共空間からほとんど見えず、まちなみ、景観に配慮しようがない	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.73	3.0	3.7	0.63	-	-	-	3.7
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.6
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			省水型機器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.7	0.63	-	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ビニル床シート・OAフロア(床)	3.0	4.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGS下地 OAフロア採用	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			発泡剤を用いた判断材等を使用していない	-	5.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率87%	-	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止			ガス設備を採用せず、オール電化としている	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		独自		-	1.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
2 振動		独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
3 悪臭				-	3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策チェックリストの一部を満たし、広告部照明は設置されていない	-	4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)名勝 第7工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)名誘 第7工場

計画上の配慮事項	
総合	地域性やサービス性能に配慮し、機能的や間隔や空間づくり、大気汚染防止のためガスを使用していなく、地球温暖化係数を出さず、オゾン層を破壊しない可能性を取り組んでいる。
Q1 室内環境	特に無し。
Q2 サービス性能	給排水管の更新必要間隔を多いにとっており、空間のあるゆとりを配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	地域性・アメニティへの配慮をしている。
LR1 エネルギー	LED照明設備など高効率設備により省エネルギー性に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	節水機能や再利用可能性向上への取組みを確保。発泡剤を用いた判断材等を使用していないため、汚染物質含有材料の使用回避を行った。
LR3 敷地外環境	大気汚染防止のため、ガスを設置していない。
その他	特に無し。